

二〇二二年 神戸大本番レベル模試 国語

解答・採点基準

全3問 100分 150点満点

一 (八〇点)

〈現代文 久保明教『機械カニバリズム 人間なきあとの人類学へ』〉

解答

問一 自己によって完全には制御できないものである敵を食べる儀礼的な食人を通じて、自己に対する視点としての他性を吸収すること。(五九字)

問二 単体で作動するが、人間が動力や目的や形態を与えるという機械の二重性になぞらえて、客観的な規則に従って動く自然も動力因としての神が形相因かつ目的因としての生体を模倣して制作したと見なすということ。(九七字)

問三 人間は機械に制作者として、生物にその一部として内在しているにも拘わらず、理論上の生命の機械化を通じて人間精神が自然の主人にして所有者としての地位を獲得するから。(八〇字)

問四 機械の制作者として人間は、理論上の生命の機械化を通じて自然の主人にして所有者としての地位を獲得してきたが、実際にはそのために、自然を解明し制御する技術、より高度な機械が必要となる。人間の能力を超えて発展していく機械が、機械を制御する人間を機械において再現し支援し拡張することで、人間は機械の能力を自らの心身に摂取する。(二五九字)

問五 (a) 忌避 (b) 端緒 (c) 円滑 (d) 典型 (e) 両義

## 採点基準

- ▼ 採点に際しては、必ず解説を参照して、許容される解答を確認すること。
- ▼ 小問ごとに、**加点法・減点法併用**で採点する。0点以下になった場合、その問は0点とする。
- ▼ 「X」という内容(？点)「」の項目は、答案全体がどのような文章構成であるかに関わらず、**答案の一部に要素Xが含まれているかどうかを判断する。**
- ▼ 「X1とX2がY」という論理関係になっていなければ、**？点減点**の項目は、**要素X1とX2が両方とも揃っている答案だけを判断の対象にする。**つまり、X1とX2のいずれかでも欠けている場合は、Yについての減点はない(Yの欠けによって失点しているので、さらに減点する必要はない)。
- ▼ 各々の採点項目について、マルかバツかの二択で判断すること。誤字脱字以外の部分点は原則として認めない。

### 問一 (12点満点)

1. 敵を儀礼的に食する、という内容 (6点)  
\*単に「人を(儀礼的に)食する」としている場合は、**2点減点**。
2. 食する対象⇨自己によって完全には制御できないもの、という内容 (3点)
3. 自己に対する視点としての他性を吸収する、という内容 (3点)

### 問二 (16点満点)

1. 神による自然の制作 (4・5) を人間による機械の制作 (2・3) になぞらえる、という内容 (4点)
2. (機械は) 単体で作動する、という内容 (3点)
3. (機械に) 動力や目的や形態を人間が与える、という内容 (3点)
4. (動物⇨機械あるいは自然を) (動力因として) 神が制作する、という内容 (3点)
5. (動物⇨機械あるいは自然は) (形相因かつ目的因としての) 生体を模倣して制作される、という内容 (3点)

### 問三 (14点満点)

1. 人間は、機械に関してはその制作者として、生物に関してはその一部として、比較される対象に内在している、という内容 (4点)
2. 理論上の生命の機械化、という内容 (5点)  
\*「機械と類比的な存在として生物一般を捉えること」で、目的因・形相因・動力因が生物の内部から収奪され、制作者としての神へと移動する」と具体的な記述も可。
3. 人間が自然の主人にして所有者としての地位を獲得する、という内容 (5点)  
\* 1と2・3が逆接構造(「1にもかかわらず、2・3」「1。だが同時に2・3」など)になっていなければ、**5点減点**。
4. 文末が「〜から」「〜ので」(もしくは、問いのカテゴリに対応する答え)になっていなければ、**1点減点**。

### 問四 (28点満点)

1. 人間は、理論上の生命の機械化を通じて自然の主人にして所有者としての地位を獲得してきた、という内容 (6点)
2. 実際に人間が自然の主人にして所有者としてふるまうためには、自然を解明し制御する技術、より高度な機械が必要となる、という内容 (7点)
3. 人間の能力を超えた機械を制御する人間の身体と精神を機械において再現し、それを支援し拡張する」とい

う内容 (7点)

4. (2・3のような方向での機械の発展を通じて) 人間は機械の能力を自らの心身に摂取していく、という内容 (8点)

問五 (各2点、10点満点)

(a) 忌避 (b) 端緒 (c) 円滑 (d) 典型 (e) 両義

\* 部分点なし

〈古文 紫式部『紫式部日記』〉

解答

- 問一 ① 一条天皇が、源氏物語を、人に読み上げさせなざっては、お聞きになっていたときに  
② 左衛門の内侍は私のことを日本紀の御局と名付けていた  
③ この娘が男子でないのはまったく運がなかった  
④ 尼になったら、修行を怠るはずありません

問二 男でさえ教養をひけらかすと出世しないとわれ、幼時から得意だった漢籍の素養を次第に隠すようになった。(五〇字)

問三 一条帝の御前で白氏文集を読み上げさせるなど、彰子が漢詩に関心を示したので、一昨年の夏頃から人のいない合間に紫式部が彰子に楽府を講じていること。(七〇字)

問四 a ベけれ

b ベギ

c ベか(べかる、べかん)

問五 八

## 採点基準

▼ 採点に際しては、必ず解説を参照して、許容される解答を確認すること。

▼ 小問ごとに、減点法で採点する。0点以下になった場合、その問は0点とする。

問一

### ① (4点満点)

1. 「うちの上／の」を、「一条天皇が」の意味に訳していなければ、1点減点。  
\*「天皇が」「帝が」「主上が」なども許容する。
2. 「源氏／の／物語」を、「源氏物語を」の意味に訳していなければ、1点減点。
3. 「人／に／読ま／せ／たまひ」を、「人に読み上げさせなされる、人に読ませなされる」(使役＋尊敬)の意味に訳していなければ、1点減点。
4. 「つつ」を、「…ては」(動作の反復)または「…ながら」(複数動作の並行)または「…て」(単純な接続)の意味に訳していなければ、1点減点。
5. 「聞／しめし」を、「お聞きになる」(尊敬)の意味に訳していなければ、1点減点。
6. 「ける／に」を、「…たときに、…ていたときに」(過去＋単純接続)の意味に訳していなければ、1点減点。  
\*いずれの語も訳し漏らさず、なおかつ直後の箇所(「…と仰せになった」)に自然につながる訳でなければ不可。「…たところ」「…ていたところ」は許容する。

### ② (4点満点)

1. 「左衛門の内侍は」と補っていないければ、1点減点。
2. 「私に」「私のこと」などと補っていないければ、1点減点。
3. 「日本紀の御局／と／ぞ／つけ」を、「日本紀の御局と名付ける、日本紀の御局というあだ名を付ける」の意味に訳していなければ、4点減点。
4. 「たり／ける」を、「…た、…ていた」(完了＋過去、存続＋過去)の意味に訳していなければ、1点減点。  
\*「…と名付ける」の代わりに「…と呼ぶ」などでもよい。

### ③ (4点満点)

1. 「男子／に／て／もたら／ぬ／こそ」を、「この娘が(この子が、紫式部が)男子でないのは」の意味に訳していなければ、4点減点。  
\*「この娘が(この子が、紫式部が)」と補っていないければ、2点減点。  
\*その他、傍線部の発言者および「もたり」の動作主が「親」である点を誤解しているものは不可とする。  
\*「この娘を男子として持っていないのは」は許容する。
2. 「こそ」の強意を適切に訳出していなければ、1点減点。  
\*正答例は、「この娘が男子でないのは「まったく」運がなかった」、《この娘が男子でないこと》「こそが」不運だった》など。
3. 「幸／なかり」を、「運がない、不運だ」の意味に訳していなければ、1点減点。
4. 「けれ」を、「…た」(過去)の意味に訳していなければ、1点減点。

### ④ (4点満点)

1. 「聖／に／なら」を、「厄になる、出家する」の意味に訳していなければ、1点減点。

2. 「む／＼に」を、「…でも、もし…たとしても」(仮定＋逆接)の意味に訳していなければ、**1点減点**。
3. 「懈怠す」を、「修行を怠る」の意味に訳していなければ、**1点減点**。
4. 「べう／＼はべら／＼ず」を、「…はずもありません、…はずもいけません」(当然＋丁寧＋打消)の意味に訳していなければ、**1点減点**。

問二 (8点満点)

1. 「男でさえ教養をひけらかすと出世しない」という内容がなければ、**3点減点**。  
\*「男だに才がりぬる人はいかにぞや。はなやかならずのみはべるめるよ」の大意を正しく記してあるかを見る。
2. 「…と言われたのをきっかけに」という内容がなければ、**1点減点**。  
\*「…と、やうやう人のいふも聞きとめてのち」の要点を的確にまとめてあるかを見る。  
\*解答のどの部分が「きっかけ」に当たる内容なのか明確なら、「きっかけ」という語はなくてもよい。例えば、「…と言われてからは」という書き方でもよい。
3. 「幼時から漢籍を読むのが得意だった」という内容がなければ、**1点減点**。  
\*「この式部の丞といふ人の、童にて書読みはべりしとき、聞きならひつつ、かの人はおそう読みとり、忘るところをも、あやしきまでぞさつくはべりしかば、」の要点を的確にまとめてあるかを見る。
4. 「漢籍の素養を隠すようになった」という内容がなければ、**3点減点**。  
\*「一といふ文字をだに書きわたしはべらず、いとてづつにあさましくはべり。」の要点を的確にまとめてあるかを見る。  
\*「一という漢字をさえ書かないようになった」は不可とする。「一という漢字をさえ書けない振りをするようになった」は許容する。

5. 「どう変わったのか」という問いに答える結び方になっていなければ、**1点減点**。

\*「…変わった。」「…なった。」「…だったが、…している。」等を許容する。

問三 (8点満点)

1. 「彰子が白氏文集を読み上げさせるなどして」という内容がなければ、**2点減点**。  
\*「宮の、御前にて文集のところどころ読ませたまひなどして」の大意を正しく記してあるかを見る。
2. 「彰子が漢詩に関心を示したので」という内容がなければ、**2点減点**。  
\*「なるさまのこと知ろしめさまほしげにおぼいたりしかば」の大意を正しく記してあるかを見る。
3. 「人のいない合間に」という内容がなければ、**1点減点**。  
\*「いとしのびて、人のさぶらはぬもののみまひまに」の大意を正しく記してあるかを見る。
4. 「一昨年の夏頃から」という内容がなければ、**1点減点**。  
\*「を」としの「夏ごろより」の大意を正しく記してあるかを見る。
5. 「紫式部が彰子に楽府を講じていること」という内容がなければ、**2点減点**。  
\*「楽府といふ書二巻をぞ(…)教へたてきこえさせてはべる」の大意を正しく記してあるかを見る。  
\*「紫式部が」および「彰子に」のいずれか一方でも間違っていたら不可とする。
6. 「何をするか」という問いに答える結び方になっていなければ、**1点減点**。  
\*「…こと。」等を許容する。

問四 (各2点、計6点)

- a 「べけれ」
- b 「へき」
- c 「へか(へかゑ、へかん)」

\* 部分点なし。

問五 (2点)

「ハ」

\* 部分点なし。

三(三〇点)

〈漢文 蘇軾『東坡居士艾子雜説』〉

解答

問一 ア 心配そうな顔をしていた。

イ 辰の刻に服用して巳の刻に亡くなった。

問二 子供の病気が心配でうわの空だということ。(二〇字)

問三 病気の我が子に宣王から貰った薬を与えたら死んでしまったことが恨めしく、同じ薬を飲んで自分も後を追いたいほど悲しい気持ち。(六〇字)

問四 ① こたえて(こたへて)

② ともに

③ なんぞはやくいわざるか(なんぞはやくいはざるか)

④ まさにもとむるところあらんとす



## 採点基準

▼ 採点に際しては、必ず解説を参照して、許容される解答を確認すること。

▼ 小問ごとに、減点法で採点する。0点以下になった場合、その問は0点とする。

問一

ア (4点満点)

7. 「憂」を「心配そうな、思い悩んだ」の意味に訳していなければ、2点減点。

8. 「色」を「顔、顔つき、表情、様子」の意味に訳していなければ、2点減点。

9. 「有」を「…をする」、「…である」などの自然な現代語に訳していなければ、2点減点。

イ (4点満点)

10. 「辰」および「巳」を、「辰の刻に」および「巳の刻に」の意味に訳していなければ、2点減点。

\*「午前八時頃に」および「午前十時頃に」は許容する。

\*「辰」と「巳」のいずれか一方でも誤訳したものは不可とする。

11. 「服」を「服用する、薬を飲む」の意味に訳していなければ、2点減点。

\*単に「飲む」と訳したのもも許容する。

12. 「而」が「辰服」と「巳卒」とを繋ぐ接続詞であることを反映して、「服」の訳語の末尾を「…して」、「…

し」などの形にしていなければ、2点減点。

13. 「卒」を「亡くなる、死ぬ」の意味に訳していなければ、2点減点。

問二 (6点満点)

14. 「心ハ…ニ係レリ」の大意を、「…が気にかかる、…が心配だ」などと説明していなければ、2点減点。

15. 「焉」が指すものを、「子が病気になったこと、子の病気」などと明らかにしていなければ、2点減点。

\*「焉」が指すものとして「稚子属疾」の大意を記してあればよい。

16. 「実(まこと)ニハ」の含みを、「うわの空だ、気もそぞろだ、政務に集中できない」などと説明していな

ければ、2点減点。

17. 「どのようなることを述べているのか」という問いに答える結び方になっていなければ、1点減点。

問三 (8点満点)

18. 王に貰った薬を子に飲ませたら死んでしまった、という経緯を指摘していなければ、2点減点。

19. 王に対して恨めしく思う、という気持ちを指摘していなければ、2点減点。

20. 子が飲んだのと同じ薬を自分も飲みたい、という気持ちを指摘していなければ、2点減点。

21. 子の後を追って死にたい(ほど悲しい)、という気持ちを指摘していなければ、2点減点。

22. 「どのような気持ちを訴えているのか」という問いに答える結び方になっていなければ、1点減点。

\*「…とどう思うか」「…と訴えてくる」「等を許容する。」

\*「…と想っている」「は不可とする。」

問四

① (2点満点)

「…たえて」「または」「たへて」

